

更新講習会・講習内容の確認について

令和 1年8月2日

登録番号		氏名	
------	--	----	--

次の記述について正しいものには○、誤っているものには×を付けてください

1. 【診断と補強について】

(ア) 診断は大地震動によって、損傷する可能性があるかどうかを判定するために行う。
倒壊する可能性があるかどうか判定する為に行う (×)

(イ) 屋根は棧瓦葺き、外壁、内壁ともに土塗り壁の住宅を、「非常に重い建物」として診断を行った。 (○)

(ウ) 「診断専用」として扱う塗厚 50 mmの土塗り壁を、新設の補強部材として使用した。
補強部材としては使用できない (×)

(エ) 三重県木造住宅耐震診断マニュアルにおいて、1階鉄筋コンクリート造+2, 3階木造の3階建て混構造の住宅は、木造部分が2階建てであるが適用範囲外である。
一般無料診断の場合、他のプログラムで診断は可能 (○)

(オ) 開口の有る壁は耐力壁でないため、耐力に算入してはいけない
基準を満足する垂れ壁や腰壁は有開口壁として算入できる (×)

2. 【Q&A と判定会からの留意点について】

(ア) 910 mmの無開口壁に、同じ仕様で同一線上隣接した、両端に本柱がある 455 mmの無開口壁が存在していた為、壁長を 1365 mmとして診断を行った (○)

(イ) 2階建ての木造住宅で壁端柱の柱頭・柱脚接合部の仕様について、ほぞ差しで構面の両端が通し柱となっていた為、1・2階ともに接合部Ⅲとした。 (○)

(ウ) 押入内部の合板が中段で切断され、上下に分かれて施工されていたが、厚みが 3 mm以上あった為、耐力壁として評価した

Q&A 2-34 刊 (×)

(エ)有開口壁について、評価できる開口部の壁長さは3 mを上限とする為、連続する長さ6 mの開口壁長の開口部は3 mと3 mに分けて評価した。

合算入力 (×)

(オ) 筋かい (L : 30×90 以上 シングル くぎ打ち) が存在している壁長が600 mmであったが、筋かいを考慮して診断を行った

900 以上 (×)

3. 「補強の問題点と注意事項について」

(ア)耐震補強計画において、補強箇所の選定については補強後の評点、補強の合理性のみ考え、家主の希望、工事に掛かる費用等は考慮しなかった。

(×)

(イ)耐震補強工事において工事中、新たな劣化事象が見つかった場合、施主にも説明し劣化改善を行った。

(○)

(ウ)補強壁として計画した軸組下部に基礎が存在しなかったが、耐力の大きな補強耐力壁とした為、基礎新設は行わなかった。

耐力の大小に関係なしで必要 (×)

(エ)エポキシ樹脂圧入補修は、ひび割れを補修するものなので元の基礎強度以上にはならない

(○)

(オ)耐力壁増設に伴う新設柱接合は、引き抜き金物によればよく、せん断力に抵抗するホゾ差し等は行わなくてよい。

(×)

開始から15分が経過しましたら、司会者から案内がありますので、それに従いお帰り頂いても結構です。

その際用紙を裏向きにして退室してください。廊下にて受講票を示し修了証明書をお受け取りのうえ、お帰りください。

お忘れ物のないように、気を付けてお帰り下さい。本日は、お疲れ様でした。

考查時間内の退出は、

お静かにお願いいたします